

# 磐城之民聲

## 平町高級助役問題を論ず

清園生

人口二萬八千、本年度の計上豫に當り時の市長たらんとする意算三十三萬圓の平町は將に發展の途上にある。

道に七萬の人口に供給し得る水道の擴張が行はれ、本年初頭に於ては都市計画法が内務省の認可を得る處となつて街の幹線道路は既に舗装を整へるに至つた。

從て次に來るものには第四小學校の建設、道路のアスファルト化が緊迫してゐる。勢ひ町政事務は輻輳を極め青沼町長の匆忙振り是我等の氣の毒に堪えない問題である。青沼町長はこの多忙なる業務に加へて本縣町村長會長の立場にあつて應酬を不在にするの日多く如何に才腕豊かなりと雖も到底一切を擔ふ譯には行かない。必然に起きて來た問題が即ち高級助役の設置である。

由來助役は町會の議決を俟たねば決定出來ぬものでは斷じてない。高級助役とは自己の戀愛房に對する責任が持てるであらうか。焉んぞ躊躇するの要あらんやである。然りとせば言へ事態が既に今日に至つては時を逸してらう。(以下次號に續く)

## 閑伽井嶽の麓

時鳥を友として  
血を吐く思ひに悩む女

青沼町長のひと度び之を公表するや或は野心家の醜き舞踏あり或は功利的に他を推さんとすありて、その喧騒振りには我等の聾聵を禁じ得ない處である。結局町長は前警部猪狩清君を推して之を町議に問ふや豫想に反して反對の聲相當にあり、之に加ふるに幾多のデマは亂れ飛んで洵に遺憾とすべき汚濁の空氣の裡に立消えた。

吾等は此時猪狩君が適任たることを問はず青沼町長の余瀝に浮抜けた弱腰と常に町議の顔色をのみ窺ふ處の怯懦を不快に思はぬ譯には行かなかつた。之即ち町長は來るべき平市實現

鬼の如き色魔の手牙にさへなまれば憐れ實父が去る五年前福島炭坑就職中殉職した手當金により生活の道を辿つた職業の全部を破壊され果ては因果の子を生むて女がある。

去年の春に初まる。れん子は亡父の遺身である若干の金によつて小川福島炭坑内に理髮店を開業することとなり夫を失つて暮す生母と共に細くも可憐なるべき一家にも一層の不遇は見舞はれることとなつた。それは其の地方に色魔狂として

發行日 一、十一、廿一 (毎月三回)  
編輯兼發行者 齋藤角治  
行印刷所 福島縣平町南町七十八番地 磐城之民聲社  
廣告料 普通一頁五十錢 特別一頁七十錢 一月十錢 三月廿五錢 半年六十錢 一年九十錢

TAIRA  
TELEPHONE  
9

然らば何人を擧げ可きか？ 町は高級助役の必要を認め實現の一刻も早きことを念じてゐる。而も今日町民の輿論は佐々木龍若君に集注されつゝある。素より之は當然の事であり佐々木君の過去に於ける經歷、現町議としての手腕能力、内に平乎たる信念を構へて外に温厚の徳義を守る彼こそ我等の助役として疵なき逸材である。

然るに佐々木氏と人格識見の對照に於て些の遜色なき町議鈴木光吉氏亦最有力の候補として推されてゐる以上絶對佐々木氏のみの獨舞臺ではない。此の高級助役問題の結果こそは町民として必ず刮目に與へるものがある。(以下次號に續く)

色崎といふ男が遂に此の一家に白羽の矢を立つるに至り彼れ漢一流の甘言によりれば遂に其の術中に陥つてしまつた。彼れ色崎は自己の性慾を充さんとするに人目多き理髮業を廢業させ幾分の生計費を送るといふ口實のもとにれんを其の附近の農家に住はせる事とした。常に一人男の長男であるからお前を嫁にするのだと稱し日夜入り浸りとなつて、れんをさいなんだ結果が極り切つた因果の種が巢喰ふに至つた。女性として斯くなればなる程弱きが常として一日も早く身の振り方を追つたのであつたが本より一時の慰みとして弄んだ色崎は寧ろれんの心金を澤等の行為は獅子身中の虫と云つべき江名町財界に波紋をよこしたのである。れんは今更ら記して敢て公平なる批判に訴ふが、看板は誠心堂々たる意氣を表現しあるもの、如くであるが翻つて彼れ金成町議が此の看

破れか、つた看板は  
而かも彼等の破れつゝある  
企畫を表顯し盡してゐる!!!

江名信用組合改善期成同盟組合

話を窃聞した。女は可弱き者よ一口に言はれては居るが自分のものは自分で守る義務がある。そんな野郎に限つて嬢には頭の上らぬものだ、女權擴張の意義に於て堂々と事理を明白にしな。

ツルヤの小僧窃盗問題で騒がれる。之れに懲りた平町の白鼠キバをひそめる！ まさか外にはあるまいが、感ぜらるゝ、双葉郡熊町村、大野村間の土木匠救事業中匡救といふ二字の手前も不願せメントを猫婆極めた不正漢があるとの噂頻々、コンナ野郎こ

然るに彼れ色崎はれんの無學をとても僅かに一日五十錢内外のみならず身は同じく組合員として組合の現實を救ひ再び誇りある處から將來自己に有利なる日當により生計を續けつゝある書類を自書して官印を捺させた關係の上に、今亦れんの同棲を上僅百五十圓を興へて親子諸共見るに至り、他所の見る目も氣暗い淵へ投げやつて終まつたのの毒なる生計の状態に泣きつゝである。

此の不幸極まる色崎の所置にれんの店舖を失ひ、剩へ幼児を抱へんは泣く／＼も赤井村の實兄をえて色崎の薄情に泣くれんに村便り悲しき内にも男子を生み落内者の者はいたく同情を寄せてゐる。色崎の薄情を怨みつゝ淋しき日々を送つてゐるが、此の一家

富岡町民よ町治に忠實な温定を計る深慮なく蜂の巢を突く如き輕舉に出でたるため見よ而かも縣下に優越を誇つた組合に波紋を起さしめ寧ろ大なる不信と損失を招いたのではないか。元より正は正、邪は邪として處せんとすることに決して憚ることなきも何等の陰謀による反對せんがため反對による損を十損とする結果を招致し組合員に多大の憂憤を與へたる。適當は決して賞められぬ、しかの

余の身を操縦界に投じて在平生活をなすこと爰に七年有半、回顧する時洵に感慨無量である。而かも此間に在つて社會の情勢は急激な變轉を今向つづけ經濟的局面に於ける窮迫の深度は吾々操縦業者の經營、生活等を一層困難に陥入れた。その事は余の記者生活に於いて或は茨城日報に所屬し、或は常磐タビュレットに勤を轉じ、時に自ら雙新聞を創刊して之に容易ならざる努力を拂ひたる等生活と新聞所屬の轉變たる有様は自己生活の苦痛より來たる焦燥の表れは言へ願ひてその浮動性を恥ぢなければならぬ。

乍然この悲惨七年の生活体験は嘗て得ざりし貴重の教訓なりと來て今諷かに反省すると共に將來に對する不退轉の決意を確保するに至つた。

不肖鈴木清園が鐵火の熱血を以て甦生の途を我が磐城之民聲に求めたる所以はまた此点に依存する。

昭和九年六月  
磐城之民聲社  
主筆 鈴木清園  
辱知各位

編譯者 齋藤角治  
行印刷所 福島縣平町南町七十八番地 磐城之民聲社  
廣告料 普通一頁五十錢 特別一頁七十錢 一月十錢 三月廿五錢 半年六十錢 一年九十錢

編譯者 齋藤角治  
行印刷所 福島縣平町南町七十八番地 磐城之民聲社  
廣告料 普通一頁五十錢 特別一頁七十錢 一月十錢 三月廿五錢 半年六十錢 一年九十錢

編譯者 齋藤角治  
行印刷所 福島縣平町南町七十八番地 磐城之民聲社  
廣告料 普通一頁五十錢 特別一頁七十錢 一月十錢 三月廿五錢 半年六十錢 一年九十錢

編譯者 齋藤角治  
行印刷所 福島縣平町南町七十八番地 磐城之民聲社  
廣告料 普通一頁五十錢 特別一頁七十錢 一月十錢 三月廿五錢 半年六十錢 一年九十錢

編譯者 齋藤角治  
行印刷所 福島縣平町南町七十八番地 磐城之民聲社  
廣告料 普通一頁五十錢 特別一頁七十錢 一月十錢 三月廿五錢 半年六十錢 一年九十錢

